

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 人間・環境学研究所

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : IV「学業の成果」

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

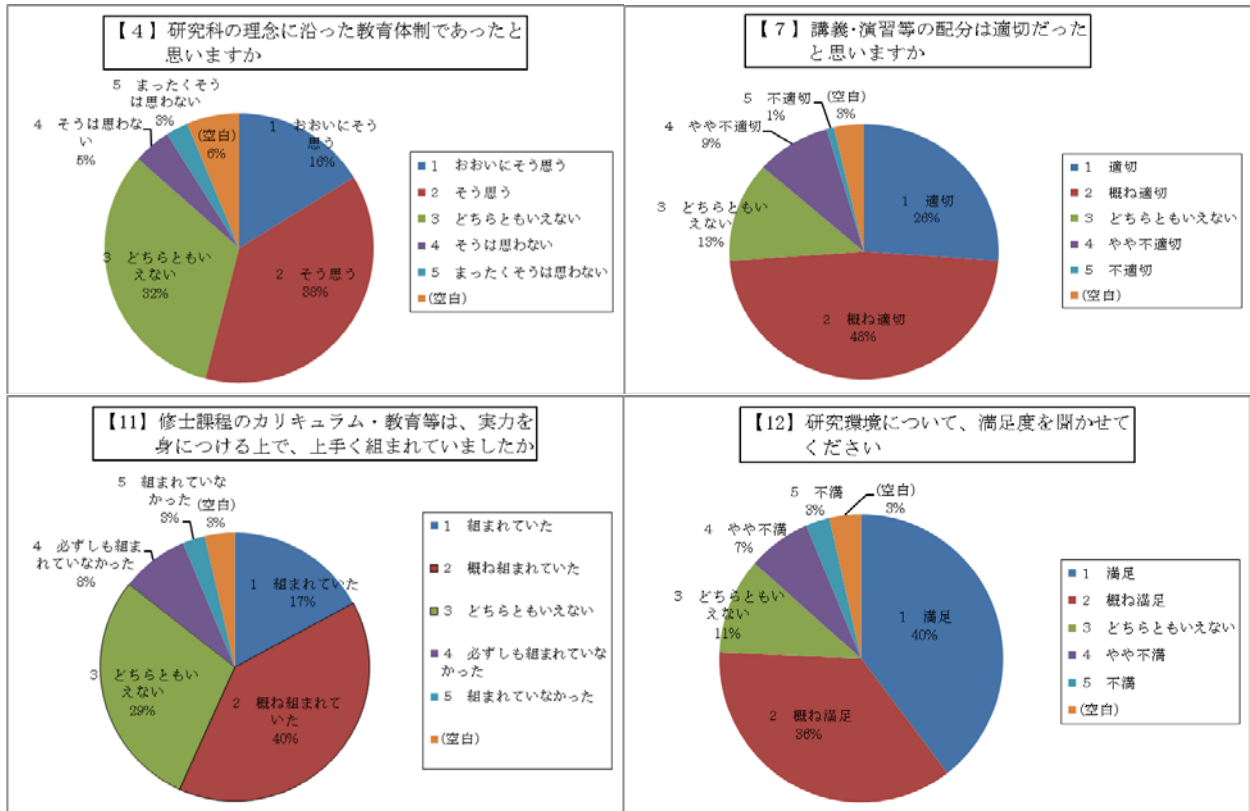
○顕著な変化のあった観点名 : 学業の成果に関する学生の評価

平成 21 年度修士課程修了者へのアンケート「人間・環境学研究所修士課程修了時アンケート（平成 21 年度）」を実施した。アンケートは、研究科の理念の達成度から学業・研究への従事時間、あるいはカリキュラム・教育への満足度、さらには、修了にあたって修士課程における学業・経験は有意義であったか、今後に役立つものであったかなど、質問は多岐にわたるものである。

平成 21 年度の修士課程修了者は 150 名であるが、そのうち修了式に出席した 111 名全員からアンケートを回収することができた。その結果、研究科の教育体制、講義・演習等の配分の適切さ、カリキュラム、満足度等について、約 60%～89%が肯定的評価を与えている結果を得た。

なお、アンケートの結果については、今後ホームページに公開する予定である。

【アンケート項目数 12 のうち 4 項目を抽出した。】



## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 人間・環境学研究所

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : V 「進路・就職の状況」

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 : 関係者からの評価

平成 21 年度修士課程修了者にアンケート「人間・環境学研究所修士課程修了時アンケート（平成 21 年度）」を実施し、111 名からアンケートを回収することができた。その結果をみると、就職が 52%、大学院博士後期課程への進学が 43%を占めており、修士課程での学業・経験が進学先あるいは就職先で役立つと回答したものが 85%を占めていた。進路・就職の状況は良いということができるとともに、研究科の教育体制について、概ね良い評価を受けているということが出来る。また、関係者からの評価を得るために、卒業者・修了者が就職した企業等へのアンケートを行うことが決まり、平成 22 年度の早々には実施する方向で進んでいる。

【アンケート項目数：12 のうち 2 項目を抽出】

